

2025年度 II期

大学院ウェルビーイング学研究所・ウェルビーイング学専攻

小論文

【解答例】

子どもの学習を指導・支援する際に教育者に求められる高度な専門性とは、学習者の発達的特性を精緻に把握し、その理解に基づいて適切な教育的介入を設計・調整する能力である。第一に、教育者は多角的な子ども理解を基盤として指導を構築する必要がある。子ども理解とは、認知的・情緒的発達、社会文化的背景、学習方略の傾向など、個々の学習者を取り巻く諸要因を統合的に把握する営みである。この理解が不十分であれば、教育的支援は画一的となり、学習者の潜在的能力を適切に引き出すことは困難となる。

第二に、教育者は学習過程における心理的安全性の確保を専門的責務として担う。心理的安全性とは、学習者が否定的評価への過度な不安を抱くことなく、自己の思考を表明し、試行錯誤を行える状態を指す。この状態が保障されることで、学習者は内発的動機づけを維持し、認知的リスクを伴う挑戦的課題に取り組むことが可能となる。教育者は、相互尊重的な学級風土の形成や、誤答を成長の契機として扱う評価観の提示を通じて、心理的安全性を制度的・文化的に支える役割を果たす。

第三に、教育者の専門性は、ヴィゴツキーの提唱した発達の最近接領域（ZPD）の概念を適切に運用する能力としても表れる。ZPDとは、学習者が単独では達成困難であるが、他者からの支援を受けることで遂行可能となる発達の領域を指す。教育者は、学習者の現時点の能力水準を査定し、過不足のない支援（スキュフォolding）を提供することで、学習者の潜在能力を顕在化させる。この営みは、子ども理解と心理的安全性の確保と密接に連動しており、教育者の高度な判断力と調整力を必要とする。

以上より、教育者に求められる高度な専門性とは、子ども理解を基盤とし、心理的安全性を保障しつつ、発達の最近接領域に働きかける教育的支援を理論的根拠に基づいて実践する総合的な人間発達援助の能力であるといえる。（785文字）

【出題の意図】

本課題は、子どものウェルビーイングの向上を志向する立場から、教育者・発達援助者に求められる学びの指導・支援に関する専門性を、教育学および発達心理学の理論に基づいて多面的に検討する能力を評価するものである。特に、学習者理解を基盤とした指導・支援の在り方を、概念的枠組みを用いて論理的に説明できるかが問われている。

第一に、「子ども理解」というキーワードを通して、教育者が学習者の認知的・情緒的・社会的側面を包括的に把握する必要性を理解しているかを確認する。これは、教育実践の基礎となる「発達観」「学習観」の妥当性を検証する意図を含む。

第二に、「心理的安全性」の概念を用いることで、学習環境の質が学習者の主体性・内発的動機づけ・協働的学習にどのように影響するかを論じる力を測っている。教育者が学習の成立条件を環境的・関係的側面から捉えられるかが焦点となる。

第三に、「発達の最近接領域 (ZPD)」を取り上げることで、教育者が発達理論を指導実践に結びつけ、適切な支援 (スキュフォールディング) を設計する専門性について理解しているかを評価する。単なる理論の説明ではなく、理論を実践的判断として論及する力量が求められている。

以上の三点を総合し、教育者の専門性を「学習者理解」「学習環境の構築」「発達支援の理論的根拠」という三つの軸から統合的に論じる能力を測定する。概念を単に列挙するのではなく、相互関連性を踏まえて論理的に構成できるかが重要な評価基準となる。